HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Proactive treatment appears to decrease serum immunoglobulin-E levels in patients with severe atopic dermatitis

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-09-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福家, 辰樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003424

論文審査の結果の要旨

アトピー性皮膚炎 (AD)の治療において、近年プロアクティブ療法が注目されている。この療法は、一旦寛解した皮膚炎部位に、抗炎症外用薬を長期間、低用量で間欠的に塗布することによって、皮疹の再燃を抑える方法である。その臨床的有効性についていくつかの研究成果をみるものの、これまで IgE 値とプロアクティブ療法の関連性に関する報告はなされていない。

国立成育医療センターに通院する重症 AD 患者のうち、2004 年 1 月から 2007 年 7 月までに入院し、退院後 1〜2 年間に少なくとも 1 回以上血液検査を再検している小児を対象とし、後方視的検討を行った。急性期治療で湿疹が完全に消失した後、プロアクティブ療法を行い、2 年間継続出来ている場合は「プロアクティブ療法群」、一方途中で継続できず湿疹が悪化した時のみステロイド外用薬を塗布するようになった場合は「リアクティブ療法群」へ割付けた。

25 人がプロアクティブ療法群に、他の 20 人はリアクティブ療法群に割付けられた。2 年後にはプロアクティブ療法群では主に週に 1〜2 回塗布のみを行っていた。血清 IgE 値はリアクティブ療法群に比べ、プロアクティブ療法群で著明に減少していた ($p < 0.01$)。加えて、プロアクティブ療法群では食物抗原特異的 IgE 値が著明に減少したが、リアクティブ療法群では変化に乏しかった。

プロアクティブ療法に対する高いアドヒアランスを継続することは、血清 IgE 値を低い状態に保ち、食物アレルギーの改善に重要な役割を果たす可能性が示唆された。今回の報告は、血清 IgE 値減少に対するプロアクティブ療法の効果を評価した初めての検討であり、審査員一同高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　主査　　戸倉 新樹
副査　　峯田 周幸　　副査　　渡邉 裕司